

自己点検・評価報告書

2025年4月1日現在

日本語教育機関名		専門学校神田外語学院（キャリア日本語科）	
点検・評価項目（振り返りのための着眼点）			評価
1	教育の理念・目標と、その具体化のための方策		
①	【理念】日本語力を駆使し、相互理解を深め協働する真のグローバル人材として世界に羽ばたくための素養を身につけた人材の育成 【目標】建学の精神「言葉は世界をつなぐ平和の礎」に基づき、教育理念を実現するため、以下に掲げる人材を育成することを教育目標とする。 (1)ビジネスの場面で使用する高度な日本語能力とコミュニケーションスキルを備え、語学力を駆使して世界の架け橋となる人材を育成する。 (2)母国と異なる日本の企業文化やビジネス環境に対する洞察力を備え、企業で即戦力として活躍できる人材を育成する。 (3)国内外の多様な文化や価値観を理解し、異文化調整力を高め、社会で主体的に行動し、協働・共創できる人材を育成する。 【具体化のための方策】 (1)(2) ・就職活動、及び就労のために必要な日本語教育を重視しており「キャリア日本語教育」を実践している。就職する上で日本語能力の証明に必要な日本語能力試験に関しても、レベル別に対策を行っている。 ・日本国内での就労に向けたキャリア教育および就職支援を行う。その一環として年間40回のキャリアセミナーを3領域「環境分析・自己分析・就職対策」で実施する。 ・個別相談・履歴書添削・模擬面接・業界研究・OBOG講話などを通じた継続的なキャリアサポートを行っている。 ・修了後の在留資格「技術・人文知識・国際業務」取得を見据えた、職種適合型の就職指導を行っている。同時に学生の日本語力と職業選択希望によっては在留資格「特定活動1号」の取得も視野に就職指導も行う。 ・今後は就職実績を業種別・企業別に記録・整理し、教育成果の可視化に努める。 ・入学前にオンライン面談を実施し、志望動機や学習目的を確認し、入学後の個別指導や就職支援に反映している。 (3) ・異文化コミュニケーションや総合日本語、企業研究といった科目を設置し、主体性・協働力・異文化調整力を養う。 ・日本社会に実際に触れるための社会見学、学校見学や地域行事などへ参加する。 ・学内他学科との共用施設が十分にあり、日本人学生と日常的なコミュニケーションの機会が得られることから、留学生と日本の学生が授業外で交流できるように、文化体験イベントでの協働作業や日本語で交流する機会を設ける。		
2	日本語教育機関の運営		
①	認定日本語教育機関認定基準又は日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認している。		A
②	運営の透明性が確保されている。 校長、主任教員、専任教員、非常勤教員、事務局統括職員、事務職員の職務内容及び責任と権限を明確に定め、かつ、教職員間で周知されている。 管理、運営のための諸規程を整備し、規定に基づいた運営が効果を上げている。 予算編成が適切になされ、明確なルールにより執行している。		A
③	運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。 機関の短期及び中長期目標が教職員間で周知されている。 運営や教育活動に必要な情報を教職員間で共有する仕組みがあり、機能している。		A
④	運営にあたり法令を遵守している。 コンプライアンス意識向上のため担当者を定めて取組を行い、効果が出ている。 関係官庁への届出、報告を遅滞なく行っている。		A
*	<現状・取り組み・課題等> 日本語教育機関の告示基準に則って出入国管理、在籍管理を行っている。また、職務分掌を明確にした上で、教員、職員間の連携を密にし、効率的な運営に努めており、中長期の目標については、教職員間で共有されており、適宜、運営方針に基づいた取り組みが行われているか会議において確認している。		
3	情報公開		
①	機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。		A
②	募集及び納付金に関する情報を公開している。		A
③	入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。		A
④	情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている。		A
⑤	公開されている情報は常に最新のものに更新されている。		A
*	<現状・取り組み・課題等> 必要な情報については、公開されている。複数言語による展開についても検討してまいりたい。		
4	入学者の募集と選考		
①	適切な方法で入学者の募集を行っている。 教育目標に合致した募集計画を立案し、募集地域や対象者を定めて募集活動を行っている。 機関所属の職員が入学希望者に対して情報提供や入学相談を行っている。 海外の募集代理人に最新かつ正確な情報提供を行っている。		B

	海外の募集代理人の適切性を確認し、募集活動を具体的な情報により把握している。	
②	適切な方法で入学者の選考が行われている。 受け入れるコースの教育内容が入学志願者のニーズと合致することを確認している。 入学選考基準及び方法が定められ、適切な体制で入学選考を行っている。 入学志願者の学習能力、学習意欲、日本語能力等を確認している。 入学志願者の情報を正確に把握し、提出された根拠資料で確認している。 不法残留者を多く発生させている国からの志願者には機関所属職員が面接等の調査を行っている。	B
*	<現状・取り組み・課題等> 募集と選考に於いては、上記項目に基づき、各募集期ごとに改善を加えながら実施できている。敢えて課題を上げるとすれば、初年度は入学選考実施時の日本語力が入学にいたるまでに十分な伸長を見せていないケースが一部見られた。今後は、当人の意欲や伸びしろを見極めることと、また紹介代理店から本人へ、日本語学習の継続指導を強く要求していきたい。	
5	教育活動	
①	教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。 理念と教育目標達成のためのカリキュラムを編成している。 学生の熟達度を、特定の試験の成績だけで判定するのではなく、「日本語教育の参照枠」の枠組みの中に位置づけて理解する試みを行っている。 理念及び教育目標に適合した教材が選択、又は制作されている。	A
②	教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。 教育活動の計画が教員全体に周知されている。 学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。 当該学期の学習内容及び学習予定等を学生に開示している。 出席簿を備え、正確に記録している。教育活動の振り返りと改善に活かせるような形で授業記録簿を残し、記録内容を関係教員間で共有している。 学習成績の判定基準及び方法が定められ開示されている。また判定結果を的確に学生に伝えている。	A
③	授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。 検証のための体制、方法及び評価の基準を定めている。 学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。 「～を実施している」ことの確認だけでなく、「それが実際に効果を上げているか」を、 根拠に基づき確認できるような評価システムとなっている。 評価結果が教育内容や方法等のプログラム改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。 評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。	A
*	<現状・取り組み・課題等> ①「日本語教育の参照枠（留学）（就労）」「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」等を参照し、熟達度に応じてレベル別授業を行い、体系的な教育課程を編成している。本学では、就職活動、及び就労のために必要な日本語教育を重視しており「キャリア日本語教育」を実践している。就職する上で日本語能力の証明に必要な日本語能力試験に関しても、レベル別に対策を行っている。 学習の評価は、各科目の特性に合わせて、筆記試験の他、ポートフォリオ評価や産出力（話す・やりとり・書く）を自己評価、他者評価・教師評価などを実施し、多様な評価材料で多角的に学習評価を実施している。 ②大学と同等の、教員マニュアル・学生向け履修案内・ブレイスメントテストを作成している。 担任と講師間で、日々口頭及び授業記録にて密に引継ぎを行い、次の打ち合わせを入念に行っている。 ③学生評価、各科目の授業報告等から専任教員会議で検討する等、毎学期コースの点検を実施している。 日頃から点検の意識が高く、学期単位で大幅な改善に取り組んでいる。	
6	教職員育成	
①	教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。 教育目標達成に必要な教職員の能力及び資質を明示している。 新任教員、初任教員を対象とし、明示された「必要な能力・資質」を向上させることを目的とした研修を実施している。 経験を問わず、所属する教職員を対象に、振り返りの機会を設け、情報の共有や成果の確認を行っている。 他機関の実施する研修会等への参加を促している。	A
②	教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。 教職員評価のための体制、方法及び評価の基準を定めて、開示している。 上位者からの評価だけでなく、自己評価、相互評価、学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。 評価結果を的確に教員に伝え、それが教員の能力・資質の向上に結び付いている。 評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。	B
*	<現状・取り組み・課題等> ①教員の募集要項、及び定期的な教員会議でも繰り返し「当科に必要な力・資質」を示している。 外国語教育専門機関の教員として各教員が省察的実践家となることを目指し、自己点検力、自己研鑽力の重要性を認識している。 初任教員研修は基本的な事項を段階的に習得できるようにプログラム化している。 ②初年度は母体の専門学校と同様に学生評価を実施した。2025年度からFD研修として授業見学期間を定め、相互評価を導入している。 学期終了時には各教員が自己評価を行い、来学期の目標を設定して面談をする等、効果的な評価システムを検討していきたい。	
7	学生支援	
①	日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。 留学生生活に関するガイダンスを定期的実施し、その効果を確認している。 留学生生活に関する生活指導担当者が特定され、周知されている。	A

	日本社会、日本文化を理解するための活動を行っている。	
②	進路指導を適切に行っている。 進路指導担当者が特定されている。 学生の希望する進路を随時把握し、入学時から一貫した指導をしている。 進学及び就職に関する資料や情報を収集し、学生に提供している。 卒業後の進路を把握している。	A
③	安全な留学生生活を送るための適切な取組をしている。 健康、衛生面について指導する体制を整えている。 重篤な疾病や障害、交通事故に遭った場合の対応、及び感染症発生時の措置を定めている。 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法等を定め、避難訓練を定期的に実施している。 必要な場合は母語等による支援体制を整えることができている。	B
④	入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。 入管法上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者を発生させないための取組を継続的にを行い、発生を防いでいる。	A
*	<現状・取り組み・課題等> 適宜、学生への生活・習慣・学習に関するガイダンスを実施している。緊急を要する場合には別途個別対応を担当職員、教員と連携し対応している。専門学校としてこれまでに整備してきた仕組み設備、各種や緊急時における連絡体制を留学生対応に同様に取り入れ、連携と共有を図りつつルール化し指導や学生管理にあたっている。 欠席が増えてきている学生やなにか兆候が見られる前に個別に呼び出し対応を行っている。 まだ卒業生が出ていないことから、今後は把握するべく学内キャリア教育センターと連携を図る予定である。	
8	施設・設備	
①	語学学習に適した施設・設備である。 教室内は十分な照度があり換気がなされているとともに、必要な遮音性が保たれている。 視聴覚教材やICTを活用した授業が可能な教育用機器及び設備が備わっている。 授業時間外に自習できるスペースおよびリソースを提供している。	A
②	学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対処を行っている。 法令上必要な設備等を備えている。 廊下、階段等は緊急時に危険のない形状である。 バリアフリー対策を施している。	B
*	<現状・取り組み・課題等> 視聴覚教材やICTを活用した授業が可能な教育用機器も含め、専修学校設置基準および法務省告示基準に則った設備は整備されている。また、授業外で自習できるスペースも確保されている。校舎のバリアフリー対策については、築年数の浅い新校舎を除き、構造上改修ができない箇所がある。	
9	地域貢献・社会貢献	
①	地域貢献、社会貢献となる活動を行っている。 小中学校の国際理解教育、ボランティア通訳等の地域活動への参加、地域の人々との交流活動を行っている。 地域における日本語教育等を積極的に行っている。	A
*	<現状・取り組み・課題等> ・1学期に数回、地域のボランティアの方を募り、ビジターセッションを実施している。 ・今後は地域のボランティアセンター訪問、地域の行事やボランティア活動に参加し、社会参加していくためのきっかけを創り出したい。	
10	財務	
①	日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。 財務状況は、中長期的に安定している。 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。 適正な会計監査が実施されている。	A
*	<現状・取り組み・課題等> 設置者である学校法人佐野学園の財務状況は中長期的に安定している。予算・収支計画は毎年度、実情に合わせた計画がなされており、評議員会、理事会の承認のもと実施されている。また、毎年度公認会計士の会計監査を実施しており、適切に会計処理が行われている旨の評価を受けている。	

参考様式：一般財団法人日本語教育振興協会「日本語教育機関のための自己点検・評価項目(2025年版)」(2024.10)

評価方法

- ・A:「達成している」あるいは「適合している」項目。
- ・B:「一部達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。
- ・C:「未達成」あるいは「適合していない」項目。